

エリアウェット

峡東教育事務所
地域教育支援スタッフ
TEL 0553-20-2731
FAX 0553-20-2733



「上農は土をつくる」
～ 子どもたちのよい環境づくりをめざして～

峡東教育事務所 地域教育支援スタッフ 主幹 那須 文彦

(笛吹市の花鳥展望台からリニアを臨む)

昨年、峡東果樹地帯ではひょう、台風、水害などによりモモやブドウなどの畑に被害をうけました。山梨県、全国を代表する果樹地帯だけに被害に見舞われた方々や関係者には思いもよらぬ災難で、大変だったことでしょう。お察しいたします。

さて私事ですが実家の果樹園も大きな被害を受けました。様々な片付けや修復作業のために、例年以上に畑仕事を手伝ったわけですが、その時に父母や周りの農家の方々から次のようなことを聞きました。

「下農は雑草をつくり、中農は作(作物)をつくり、上農は土をつくる。」

この言葉を恥ずかしながら初めて聞きました。その意味は次のような意味でした。

「下農は雑草をつくり」とは、怠慢な農家は、田畑に雑草を生やしてしまうということ、

「中農は、作物をつくり」とは、せっせと働く農家は、よい作物をつくり収益を上げることに努力するということ、

「上農は、土をつくる。」つまり上農は、目先の収穫よりも、まず土壌を豊かにすることに力を注ぐという農業の根本を示した言葉でした。

私は、この言葉からあるヒントが浮かびました。この言葉を教育や子育てに置き換えてみました。まず下農です。子どものしつけや教育を怠り放任して育てた子は、非行に走ってしまい、手に負えない事態になる可能性があるかもしれません。二つ目の中農といわれる一般家庭は、よい成績、よい学校、よい就職と夢をみて、子どもを過度に励ますことによって、時には背伸びしすぎてしまうこともあるかもしれません。三つ目の上農です。思慮深い家庭は、しつけを重んじ人に迷惑をかけない、思いやりの心を育て豊かな心を育んだ人づくりを重視する教育。このような家庭に育った子どもは、思いやりの心、感謝する心など人間として大切な心を持った人に成長するのではないのでしょうか。

峡東地域に集う、学校・保護者・地域住民・行政機関・各種団体が一体となって、土をつくる上農の精神のように、温かく、優しく、思いやりのある心を持った子どもたちを育てていきましょう。そのためには、峡東地域の教育関係機関で構成している「峡東地域教育推進連絡協議会」設立の趣旨にある、「地域の子どもは地域で育てる」という基本理念に立ち、一体となって「地域教育」の一層の推進や教育環境づくりを図り、具体化・実践化していくことが必要です。また、子どもたちが地域に飛び出し、地域の自然や施設、地域の人々から学び、豊かな心を身に付けるために、地域の諸機関や各種団体が連携・協力し、学校・家庭・地域社会の協力体制を確立していきましょう。目先のことにとらわれるのではなく、それぞれの学校や教育機関が目指す像に迫るための環境作り、人づくりを大切にしながら子どもたちの「生きる力」をはぐくむことのできる環境作りのために、ともにごんぱりましょう。

カラー版をご覧ください

『エリアウェット』はカラー版を峡東教育事務所のホームページに掲載中です。右のQRコードをスマホのカメラから読み取り、ホームページを開いて下さい。是非ご覧ください。

ホームページアドレス

<https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-hym/chiiki/areaweb.html>



エリアウェット
ホームページ

ご意見をお寄せください

◎『エリアウェット』のご意見・ご感想・取材情報をスタッフ一同お待ちしております。右のQRコードをスマホのカメラから読み取り、メールでご連絡いただくか、表紙右上の連絡先にご連絡下さい。

E-mail アドレス

kyoiku-hym@pref.yamanashi.lg.jp



お問い合わせ

峡東地区「学力向上キャラバン」

山梨県義務教育課

山梨県教育委員会では、各小・中学校が取り組んでいる学力向上の取組への支援となり、学習に対する児童生徒や保護者の悩みの改善、児童生徒が学びに向かう力の育成につながるよう、希望する小・中学校へ県教育委員会指導主事等が訪問し、講話や相談を行う「学力向上キャラバン」を実施しました。今年度、峡東地区では笛吹市立御坂西小学校、笛吹市立芦川小学校、山梨市立日下部小学校、山梨市立山梨南中学校、甲州市立松里中学校の5校で訪問を行いました。学力向上に向けての取組等、参考となったと思います。



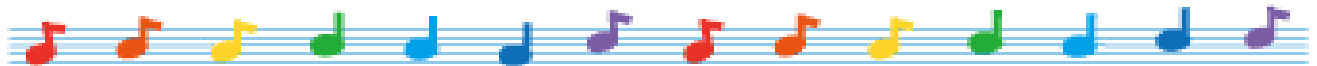
「夢からはじまる」講演会

11月29日（金）に山梨県立ろう学校で「夢からはじまる」と題した羽中田昌さんの講演会が行われました。講演では、羽中田さんが、サッカーを本格的に始めたきっかけとなった、オランダのヨハン・クライム氏や

ろう学校 中・高等部



葺崎高校時代の高校選手権の話から始まり、バイク事故に遭って一度は県の職員になったものの、Jリーグ発足を機に、サッカー界に戻るという夢を抱き、スペインで5年間サッカーの勉強をしてS級ライセンスを取得したことなど夢を叶えた経験を話されました。途中、高校時代の“恋バナ”にも触れ、高校時代にはかなわなかった恋を、卒業して7年後に実らせたという、サッカー以外でも夢を叶えた経験も話すと、会場から拍手が起きました。参加した中学部、高等部の生徒たちも演者の顔を見てじっと聞き入っている姿が印象的でした。「夢は実現してこそ夢なんだ」そんな思いを抱いた講演会でした。



社会教育委員と高校生の意見交換会 甲州市社会教育委員会・塩山高校

12月13日（金）に塩山高校で、甲州市の社会教育委員と高校生が意見交換をする「高校生の目を通して地域を考えよう」が塩山高校の3年5組の生徒22名と社会教育委員16名の参加で開催されました。今回は「魅力的なまちづくり」をテーマに福祉・介護についてグループワークを行いました。会ではまず健康体操が若林俊先生の指導で行われ、参加者はお年寄りが無理せず、怪我もせずに行える体操を楽しく体験しました。体操で気持ちがほぐれた後で、委員3名と生徒4～5名がグループを作り、自己紹介の後、話し合いが始まりました。話し合いでは、まず「介護のために必要なこと、介護が必要な人への接し方、介護するとき何をしたらいいか、何があればいいか」



についてそれぞれの意見を付箋に書いて、模造紙に貼りました。そして、出された意見をグループに分けました。最後に、班ごとに模造紙を掲示して発表を行いました。「接し方」では、「思いやりをもって、ゆっくりとわかりやすく話すことや、笑顔で言葉をかけること」、「何があればいいか」では、「バリアフリー、買い物介助、入浴の支援、介護用品の貸し出し」といった意見が発表され、この取り組みが、地域のひとづくり、絆づくり、更に地域をよりよくする活動となればと感じると共に、甲州市の未来について世代を超えて語り合う場となったと感じました。



1年生の里帰り

笛吹市立一宮中学校&一宮中学区内小学校

12月17日(火)に一宮中学校の1年生の生徒が、卒業した一宮西小学校、一宮北小学校、一宮南小学校を各々訪問する「里帰り学習」が行われました。この行事は、母校を訪れた中学生たちが、来年度中学校に入学する6年生に中学校生活について説明したり、質問に答えたりしながら交流を図るというものです。全体会の中で、中学生たちは「テストも大変だけど、桃香祭(学園祭)など楽しいこともある。」「部活は初心者だったが2・3年生のおかげで上達した。」ことなどと中学校生活について英語で説明していました。その後に行われた小グループでの交流会では、小学生からの「中学校の授業はどんなようすか?」「家ではどんな勉強をしているのか?」といった質問に、中学生は中学校の教科書や英語のノートを開いて見せたり、学校から出される課題の説明を交えたりしながら丁寧に答えていました。小学生からは、「勉強が大変だと感じたが、がんばろうと思った。」「友だちができるか不安だったが少し和らいだ。」といった感想も聞かれ、3ヶ月先に迫った中学校入学に胸をふくらませていました。



高校生による読み聞かせ

日川高校&つつじ幼稚園

12月17日(火)に、日川高校の生徒11名による読み聞かせが山梨市立つつじ幼稚園で行われました。高校生は、幼稚園に着くと3つのグループに分かれ、それぞれのグループが15分ずつ、年少、年中、年長の各クラスを順次交替しながら回りました。

「うずらちゃんのかくれんぼ」「みならいサンタ」といった絵本の読み聞かせはもちろん、「とんとんとんとんアンパンマン」「しあわせなら手をたたこう」といった手遊びもありました。中でも、「やさいができたよ」というパネルシアターでは、大きな紙を貼った

パネルに、にんじんやごぼうといった野菜が差し込んで

あり、高校生がストーリーを語りながら、うさぎやさるが野菜を引き抜いていくといった工夫がされたものもありました。「カエルのおでかけ」の読み聞かせでは、雨の日に喜び勇みピクニックに出かけるカエルに対して、「みんなは雨の日に出かける?」など、会話のやりとりを行う姿も見られ、楽しそうに返事をする園児の姿が印象的でした。高校生たちは、この行事を通してそれぞれの役割を果たし自らの可能性を実感できた反面、幼児と接することの難しさに気づくよい機会となりました。



未来の科学者訪問セミナー

山梨科学アカデミー&一宮南小学校

12月20日(金)に笛吹市立一宮南小学校で山梨科学アカデミーによる未来の科学者訪問セミナーが実施されました。この事業は、本県ゆかりの研究者が、県内の小学校、中学校、高校を訪問し、科学や技術についてわかりやすく語るというものです。

当日は、山梨大学のクリスタル科学研究センター長の田中功教授が同校を訪れ、『液体窒素で超低温の世界を体験』と題した実験教室を開催しました。教室では、まず田中先生が「水は100℃で沸騰しますが、液体窒素は-196℃で沸騰します。」といった物質の性質や「実験を行うときには結果を予測しましょう。そして、実験結果を見て、なぜそうなったか考えて下さい。これからは、考える力が重要です。」といった実験をする上で大切なことを児童に説明しました。実験では、液体窒素を床にこぼすと玉になってはじけたり、膨らました風船を液体窒素につけるとしぼみ、出すと元に戻る状況やビニール袋に入れた酸素を冷やすと液体酸素ができるようす、液体窒素で冷却した超伝導体の上に永久磁石が浮上しているようすなどを観察しました。どの実験でも体験できる場面が設定され、児童たちは進んで手を挙げて実験に取り組んでいました。そして、最後に田中先生から、「日頃から身近な現象や物を理解したり観察しましょう。そして『なぜだろう?』とか『もっと便利にならないか?』とか考えてみて下さい。そして、未来の科学者、研究者を目指して下さい。」と小学生にメッセージが伝えられ、実験教室は終了しました。小学生の純粋に科学を楽しんでいる姿を見て、「こんな姿を中学校、高校と継続させていきたい。」と感じました。



地域と共にある学校づくり

甲州市立大和中学校

12月23日(月)甲州市立大和中学校で「地域と共にある学校づくり」の一環で、地域の方を講師に招き、地域で採れる材料を使った「門松づくり」が2年生の総合的な学習の時間で行われました。まず講師の平山正美さんを紹介されたあと、生徒たちは「門松を飾る伝統文化をどのように思っているか?」といった質問に対して意見を出し合いました。大和中学校では、生徒が意見をタブレットに入力し、それが前の画面で表示されたり、タブレットに門松の作り方の動画が入力されており、講師にすべて教えてもらわなくても動画を見ながら自分のペースで作ることができるなどICTの環境が整っています。生徒たちは、こういった動画を見ながら、時折講師の先生の手助けを受けながら、



門松の製作に取り組みました。最初は、円筒形の土台にワラをひもで固定し切りそそえたり、3本の竹を差し込んだりと慣れない作業に四苦八苦していましたが、松や南天といった飾りを差し込む段階ではリラックスした表情で作業を進めていました。作業終了後には、「地域の人から教えてもらう機会があったら積極的に参加したい。」との声も聞かれ、今回のような授業が、生徒が地域との交流を深め、地域で伝えられてきた伝統文化が後世に引き継がれる一助となっていくと感じました。



甲州弁で語る民話の世界

甲州市立玉宮小学校&山梨むかしがたりの会

12月24日(火)甲州市立玉宮小学校で、山梨むかしがたりの会による「甲州弁で語る民話の世界」が開催されました。当日は、会のメンバーできしゃごグループの3名が同校を訪れ、民話や伝説、手遊びで全校児童を楽しませてくれました。授業ではまず、メンバーが甲州弁で「おっばじめてもようこいすけ。」「ようこいすよ。」「はじめさせてもらうじゃん。」などの甲州弁によるやり取りを児童たちに教えると、児童たちも「ようございます。」と元気に応えていました。そして、ハケ岳と富士山が高さを競った「山の背比べ」、「水乞鳥(みずこいどり)」「貧乏神の土産」「舌切り雀」や「あとかくしの



ゆき」「子育て幽霊」といった県内外の民話が甲州弁で語られました。話の合間には、「餅を焼いてひっくり返して焼いて〜♪」や「きびだんご1つと4つできびだんご5〜♪」といった歌いながらの手遊びも行われ、児童たちは初めて聞く昔話に聞き入ったり、元気に手遊びを楽しんだりしていました。昔は本もなく、子どもたちは両親や祖父母から民話を聞くことを楽しみにしていました。こういった民話の中から、子どもたちは自己の生き方や物事の善悪、命の大切さを学び取って成長していきました。この行事を通じて、改めて家庭や地域の中で子どもを育てることの大切さを感じました。



高校生と書き初め書いちゃお!

NPO法人すてっぴ・あっぴる&塩山高校書道部

NPO法人すてっぴ・あっぴるでは12月27日(金)、冬休み小学生企画の中で塩山高校書道部を招き、小学生に書道教室を開催しました。今回のテーマは『高校生と書き初め書いちゃお!』でした。峡東地域を中心に12名の小学生が参加しました。塩山高校書道部で大活躍の6人の高校生たちが小学生に書道の楽しさ、自分らしい書き方をとめていねいに教えていました。小学生は高校生のアドバイスを真剣に聞いていました。一筆一筆に集中し、一生懸命に書きあげ、すばらしい作品に仕上がっていました。「字が上手になった」「楽しくできた」「教え方が上手だった」などの感想がありました。また高校生から「小学生に教えることによって自分自身の勉強にもなった」という感想を聞きました。事務局からは、「4回目となり継続することで地域に根付いてきた。大人ではなく高校生が教えるという異年齢交流のメリットがある。」という話を聞きました。高校生は子どもに教えることで、いい経験になったこと



でしょう。お互いに有意義な時間を共有できたと感じました。



オリンピック講演会／食育授業

笛吹市立御坂西小学校・一宮南小学校

1月9日(木)にオリンピック講演会と食育授業が御坂西小学校と一宮南小学校で実施されました。

オリンピック講演会では、リオデジャネイロオリンピックに出場した経験の持ち主で、笛吹市役所に勤務するウエイトリフティングの中山陽介さんが講師として招かれました。講演では、まず動画をもとにウエイトリフティングにはスナッチとクリーン&ジャークがあることや、3回の試技が出来ることなど基本的な知識が説明されました。それから、オリンピックについて、参加国や参加者数、選手村の部屋や食堂の様子、他競技の選手との交流について自身のリオ五輪の経験を話されました。中山さんは、日川高校時代にはインターハイで5位だったそうです。しかし、自分ではまだ記録を伸ばせるという目標を持ち、大学、社会人と競技を続け、リオ代表を手に入れました。特に、社会人になってからは、3ヶ月後に自己新記録を出すという目標を掲げ、その目標を達成するために、1日1日のメニューにしっかり取り組むことで記録を伸ばし、社会人2年目の全日本選手権で2位となり、日本代表に選ばれてからオリンピックを目標にするようになったそうです。そして、2015年の全日本選手権で2位となりオリンピックの代表選手に選ばれました。「オリンピック選手に共通しているのは、夢を諦めなかったことです。私もそうですが、オリンピック選手は特別な人ではありません。1つの目標に向かって一生懸命に諦めずがんばる気持ちがあれば、誰にでもチャンスがあります。私は、父母や友人、いろいろな人に支えられて競技を続けてきました。仲間から応援されるのが目標に向かう原動力になりました。」といった言葉が印象に残りました。

食育授業では、大手食品メーカーによるチョコレートがどのようにして作られているのか、またチョコレートを通して国際協力を考える講演会が行われました。チョコレートの原料はカカオです。講演では、まずカカオ豆がどのような植物から収穫されているのか、収穫後、発酵や天日干しを行ってから検査を経て日本に輸出されていること、それを日本で、クリーナー、焙煎、磨砕、混合、微細化、コンチェといったさまざまな工程を経てチョコレート製品に仕上げていることが説明されました。

国際理解では、カカオの生産国であるガーナについて、人々が困っていることとして、「学校が足りない。医師が不足している。安全に飲める水がない。」といった課題があげられました。この課題をもとに、児童達は「ガーナのために自分ができること。」についてグループワークを行い、それぞれのグループの代表が意見を発表しました。講師の先生は、「この問題に答えはありません。自分たちで何が出来るか考えることが大切です。」と児童達に語りかけていました。企業としても、カカオ農家に対する勉強会や学校に文房具を贈ったりといった活動を通して、国際貢献に取り組んでいるそうです。児童達にとって、普段何気なく食べているチョコレートが日本だけでなく海外の人が関わって作られていることやカカオの原産国であるガーナについて理解を深めるよい機会となりました。



あいさつで地域と学校をつなげよう

笛吹市立一宮中学校

1月19日(金)に笛吹市役所一宮支所で行われた区長会に、一木PTA会長さんと中村生徒会長が出席し、中学生が継続して取り組んでいる「あいさつ運動」を地域の方に知ってもらい、地域の方々ともあいさつを交わすことができるようにしたいという要請をしました。

今年度の一宮中学生徒会は、『つなぐ〜結・悠・佑〜』をスローガンに掲げ、執行部を中心に様々な自治活動を行っており、今回は町内の小学校児童会およびPTAとも連携し、一宮町内全体にあいさつ運動を展開したいと考えました。

区長会のみなさんに理解をいただき、一宮町内全戸へチラシ配布を了承してもらい、中学校から地域へあいさつ運動が普及されました。



あいさつで
地域と学校を
つなげよう

一宮中学生徒会では、『つなぐ〜結・悠・佑〜』をスローガンに掲げ、執行部を中心に様々な自治活動を行っています。今回は、一宮中学校の積極的に対応しているあいさつ運動を通して、地域のみなさんにも知っていただくために、町内の小学校児童会およびPTAとも連携し、一宮町内全体にあいさつ運動を展開したいと考えています。ご理解と協力をお願いします。

一宮中学校生徒会 一宮中学校 PTA
一宮西小学校児童会 一宮西小学校 PTA
一宮南小学校児童会 一宮南小学校 PTA
一宮北小学校児童会 一宮北小学校 PTA



全国小学校英語教育実践研究大会・公開授業

山梨市立加納岩小学校

全国小学校英語教育実践研究大会山梨大会実行委員会では、「2020年度小学校学習指導要領全面実施への架け橋 ～英語を使って、自ら考え、伝え合うことのできる児童の育成～」のテーマのもと、全国小学校英語教育実践研究大会・公開授業を実施しました。

峡東地区の加納岩小学校が第3会場となり、1コマ目は、山梨高校体育館を会場に山梨市立加納岩小学校2・4・6年生、山梨南中学校の2年生の授業を一堂に公開する「ラウンドビュー」を行いました。体育館の中では小学生や中学生が同じ空間で英語を学ぶことができ、積極的に児童や生徒同士で英語によるコミュニケーションを図っていました。2コマ目は、3・4・5・6年生の公開授業で、各教室ではあちらこちらから元気な発言や会話が響き渡っていました。授業者は、無理のないステップを踏んだ指導や学びのつながりを意識した英語科の授業実践を行っていました。公開授業後は事後研究会が行われ活発な意見交換が行われました。

同じ学区に通う小学生と中学生が一同に会して学ぶことで、子どもたちや教員も学びのつながりを意識することができ、とても有意義な時間でした。感想の中に「とても楽しかった」「英語で伝えることができるようになった」「もっと上手に英語を話したい」など今後の小学校学習指導要領全面実施に対して活かしていくことができるような内容でした。



山梨ことぶき勸学院【峡東教室】令和2年度学生募集

1月31日(金)に学習活動全体発表会が山梨県立文学館で開催されました。この全体発表会は、1年間の勸学院での学習や諸活動をまとめ、発表することで、勸学院での活動の質的向上や卒業後の活動継続を促すことを目的に行っています。峡東教室は、2年生の代表が「峡東地域の空家の実態と利活用」をテーマに研究発表を行いました。1年間の学習の成果がよく分かるとてもすばらしい発表でした。



令和2年度の学生募集について

勸学院では文学、歴史、社会、経済、環境、健康などいろいろな分野を学ぶことができます。その特徴は、以下の3点です。

- ① 仲間とともに楽しみながら学ぶことができる。
- ② 地域の歴史や文化についての学習など、地域活動・研究を深めるプログラムが充実している。
- ③ 峡東教室の講座は甲州市の東山梨合同庁舎を主に年間22回(月2回程度)9時30分～12時を基本として実施されます。

皆さんも、ことぶき勸学院で同じ目的をもつ仲間とともに、「生きがいの創出」「新たな出会い・絆の構築」「地域に貢献できる人材」「健康増進」などをキーワードとして新たなライフスタイルの実現に向けて学んでみませんか。

募集要項は1月中旬から、市町村の教育委員会、東山梨合同庁舎内の峡東教育事務所、山梨ことぶき勸学院(甲府市東光寺)等で配布する他、山梨県のホームページからもダウンロードできます。出願期間は、令和2年2月3日～3月16日です。

⇒「募集要項」「活動の様子」は、PC・スマホで…

山梨ことぶき勸学院 検索



ことぶき勸学院
ホームページ

